

# 新年のご挨拶

院長 沼尾 利 郎

あけましておめでとうございます。皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。本年もよろしく願い申し上げます。

さて、昨年は社会においても当院においても激動の1年でした。3月の大震災で当院は大きな被害を受けましたが幸いにも患者さんや職員に直接的な健康被害はなく、多くの方から暖かいご支援を受けて5月中旬までには病院機能を回復させることができました。その後には多数の被災者を受け入れたり医療チームを被災地に派遣して、「被災病院」から「支援病院」に立場を変えて活動してきました。一方、3月末には機構本部から病棟更新築の正式な承認があり、病院の方向性や将来計画を明確にする必要性から「宇都宮病院前進プロジェクト」を10月にスタートさせました。病院の理念や使命、運営方針なども新たに作成した次第です。

このように昨年は病院内外で大きな変化があった訳ですが、インフラ（基盤）が整備された後はコンテンツ（中身）の時代です。たとえ建物が新しくなり最新の医療機器が入っても、それを使いこなす優秀な人材がいなければ質の高い医療を提供することはできません。このため、病院全体として系統的な人材育成システムを構築して、チーム医療や地域医療などに多職種協働の体制を確立させたいと考えます。

ところで、昨年末には日光アイスバックスのセルジオ越後さん（シニアディレクター）と大久保選手会長、瀬高副主将の3名の方が当院や岡本特別支援学校へ来られて、患者さんや子供達と交流をしました。アイスバックスは経営的に苦しい時期を乗り越えてきた経験があり、諦めずに困難を克服してきた過程こそがチームの強みであり地域の支えにもなっています。このような事情は数年前の当院と全く同じであり、地域社会における地域スポーツのあり方は私たち医療人にとっても大変参考になりました。

どんなに時代が変わろうとも、私たちがなすべき事は変わりません。当院が目指すのは「安全で質の高い医療を患者さんの視点に立って提供すること」であり、「患者さんや地域から信頼され職員にとっても働きがいのある病院の実現」です。地域の医療機関や介護・福祉施設との連携をより一層進めながら、地域医療（がん・糖尿病・救急など）と政策医療（重症心身障害・神経難病・結核など）に貢献すべく努力いたしますので、皆様のご支援とご協力を心からお願い申し上げます。

